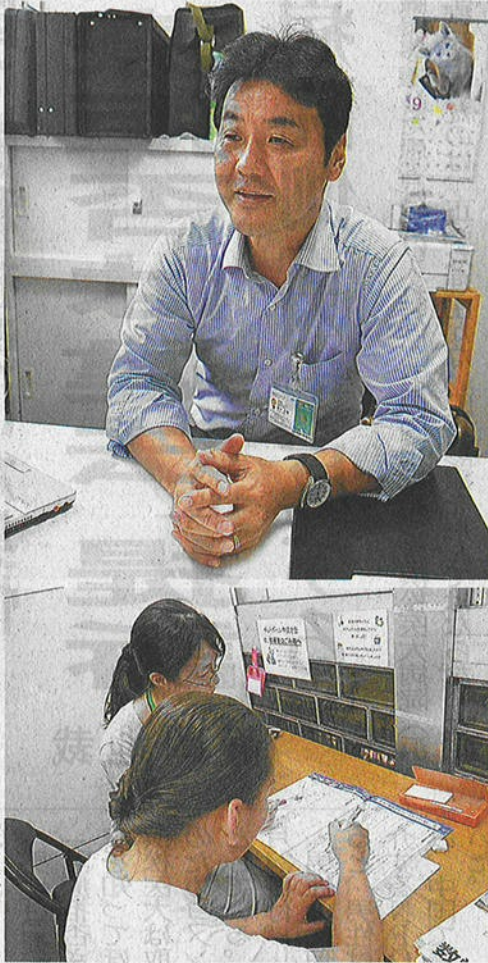


発達障害、不登校…

悩める親子塾で支援

発達障害や不登校などが原因で社会的自立が難しくなる現状を変えようと、草津市の男性が、学習・発達支援や社会的スキルの育成、子育て相談などを手がける塾を開き、悩める親子を支えている。学校から子どもを紹介されるケースも増え、フランチャイズ展開も始めるなど広がりを見せ、「ニーズの多さを感じている」と語る。

商社から教育業界に転職し、2005年から学習塾「アットスクール」を経営する鈴木正樹さん(49)。創業のきっかけは、も自身も家族も苦しんでいる現実を知り、教育相談員時代に不登校の子どもから「学校に行きたくないんじゃない。行きたいのに行けない」と打ち明けられたこと。子どもを丸ごと支える必要性を実感した。



⑤教育の現場が、子どもが働くイメージを持ち、生きる力を育むことが大切と語る鈴木さん(草津市大路十丁目)⑥アットスクールで個別指導を受ける生徒

草津の男性、総合的に対応

人間関係構築、心理相談も

近年、学習障害や自閉症スペクトラムなど発達上の課題を持つ子が目立ち、ちょっとしたきっかけで学業不振や不登校になって学校生活を送れないケースも増えている。知的障害児の支援は充実してきたが、障害が可視化されにくいボーダーラインの子の問題を含めた総合的な支援が課題になっている。

塾では幼児から高校まで一貫してサポートする。教育職のほか、臨床心理士や特別支援教育士も在籍、学習支援だけでなく、人間関係の築き方などのソーシャルスキルトレーニングや心理教育相談まで手掛ける。指導員の養成や、学校に行きにくい子の親からの依頼で学校を訪れる訪問支援にも力を入れる。全国にサポートの場を広げようとフランチャイズ展開も開始、企業や主婦、NPOなどから問い合わせが相次いでいる。

塾の経営に加え、財団法人「発達サポートセンター」ピアすまいる」を設立し、厚生労働省の放課後デイサービスや保育所等訪問支援事業なども受託し、支援の幅を広げる。「不登校児や発達障害児をとりまく問題は、決して特別ではなく、日本が抱える問題の縮図」と鈴木さん。「健常・障害関係なく、子ども一人一人が得意なことを生かして自立へ向かえるよう、保護者や学校と一緒に子どもに力をつけたいし、伴走できる人を増やしたい」と話す。(小坂綾子)